

## 大賞

まちがうゆう気

荒川区立第三日暮里小学校三年

草柳 祐美子

柳田先生こんにちは。

わたしはこれまで、教室ではぜったいにまちがえてはいけないと思っていました。なのでさい近、あまり手をあげて発言をしていませんでした。けれども『教室はまちがうところだ』という本を読んで、まちがえてもいいのかなと思うことができました。

本の中で一番心に残ったのは「安心して手をあげろ。安心してまちがえや。」という言葉です。自しんがなくてもまちがえても、それが成長につながります。だからたくさん手を上げようという意

味でした。

手をあげてまちがいを発言するとその間違いについてみんなで話し合うことができます。そうすると、一人では気がつけなかった本当の答えをさがすことができます。そうすれば自分が成長するだけでなくクラス全体がよいべん強になるのだと思います。だからゆう気を出してまちがえるのは、みんなのためになるのだとわかりました。

でも本を読んでも、やっぱりきんちようしてしまえます。きゆうに発言するのはやっぱり自しんがありません。

だからわたしは目ひようを決めてがんばりたいと思います。少しずつなれていけば、たくさん発言することができると思います。そうしたら教室の中だけではなくて、学年や、学校全体でも発表

できるようになれると思います。さらに、地域全体でも自信をもつて、発言できると思います。みんながそうになったら、今すんでいるところが、もっとすてきなまちになると思います。

わたしは、この本を読んでこれから自信をもつて手をあげて、たくさん発言したいです。そしてクラスの人などでたくさん伸びていきたいと思えます。そして、学校いがいのいろいろな場所で活やくできる3年生に、みんなでいっしょになりたいたいと思います。

### く柳田邦男先生からのメッセージ

この作品集の「はじめに」で書いたように、一冊の絵本を読んだり、だれかに読んでもらったりしたとき、だいじなことは、その絵本の中で、い

ちばん感動したところとか、いちばんおもしろかったところとか、あるいはいちばん印象に残った言葉や絵を、もう一度頁をめくって読みなおしてみることです。

そうすることで、その絵本は、いちばん感動したりした場面や言葉とともに、しっかりと心に刻まれるのです。

草柳さんは、絵本『教室はまちがうところだ』を読んで、いちばん心に残ったのは、「安心して手をあげる。安心してまちがえや。」という言葉だったのでね。なぜ心に残ったかというと、それまでは教室ではぜったいにまちがえてはいけないうと思いきんでいて、教室では積極的に手をあげて発言することはあまりしていなかったという自分の考え方と、絵本のなかで先生が、まちがえてもい

いんだ、「安心してまちがえや」と教えてくれる考  
え方が、まったく違っていたからですな。

しかも、草柳さんが気づいたことは、それだけ  
ではなかった。自分の発言がまちがっていると、  
みんなで話し合って、「一人では気がつかなかった  
本当の答えを探すことができます。そうすれば自  
分が成長するだけでなくクラス全体がよいべん強  
になるのだと思います。」と書いているように、ク  
ラスの仲間たちのためにもなるのだと、考えを広  
げているところがすばらしい。

そうすることで、「クラスのみんなでたくさん伸  
びていきたい」と結んでいるところに、力強さを  
感じました。

このように本を読んで、《これはだいじなこと  
だ》と気づいたことを、自分の考え方に重ね合わ

せてみて、自分のまちがいを正しくするとともに、  
クラスの仲間たちの成長につながるようにしよう  
とするところまで、考えを発展させている点を、  
私は高く評価しました。